

International Symposium on Sustainability Science: Towards a Mature and Sustainable Society

実施機関：一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム

(総括責任者：小宮山 宏)

実施期間：平成 24 年度

プロジェクトの概要

「社会の推進役である産業界がサステナビリティ学の推進の一翼を担うべき」という信念のもと、国際的なサステナビリティ学に関する教育と産学連携を軸に、国際的に著名な学者や産業界の指導者達をシンポジウムに招聘し、わが国の同学に携わる研究者や産業界の経営者らと会合を行うことで、サステナビリティ学に関する国際的な産学連携を推進することを目的とする。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本取組は、俯瞰的・統合的アプローチによる持続型社会の構築に向けたサステナビリティ学の概念を内包するビジネスモデルの構築及び次世代を担う人材育成を我が国のリーダーシップのもとに実現することを目指し、国際的に著名な学者や産業界の指導者達を招聘して、我が国の同学に携わる研究者や産業界の経営者らとシンポジウムや会合を行って、多様なステークホルダーによる対話から、サステナビリティに関する科学技術外交のあり方を探ることを目的として実施された。今回実施された公開シンポジウム、そして大学での講義および学生らとの討議により、そのきっかけとなる基盤が構築されたものと評価できる。今後、この取組が外交面においてより効果的な活用につながるよう、その方策についてさらなる検討を期待する。

・**目標達成度**：サステナビリティ学の発展に必要な産業界から 88 名のシンポジウム参加者を得て、国際的な議論が深まったこと、今後の同学に関する科学技術外交に資する提言書を採択したことなどから、趣旨とした目標を達成していると評価できる。

・**成果**：地方自治体や産業界などからの幅広いシンポジウム参加者にサステナビリティ学という新しい概念を情報発信してその普及を図りつつ、我が国のイニシアチブのもとに国際的産学連携の推進を試みて、そのきっかけとなる基盤を構築したことは評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：政府関係者等も交えた国際会議における、サステナビリティ学に関する科学技術外交展開に向けた議論を含め、公開シンポジウムにおける討議、そして大学における学生や若手研究者との交流内容は、今後の政策対話誘導に資するものであり、適切な取組であると評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：本シンポジウム終了後、その結果を踏まえて国内及び海外において、サステイナビリティ学の利用と普及に向けた多くのワークショップやシンポジウムを開催するなど、取組を継続していることは評価できる。今後、国内外の産業界の参画をさらに促進し、本シンポジウムでの提言の実行そして具体化に向けて、さらに広い国際ネットワーク形成に向けた検討を期待する。